

「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。」(ルカによる福音書 12 章 27 節)

「創造主の愛」

野原の花。それはすなわち、誰が育てているでもない野生の花です。私の家の近くにもいろいろな花が咲いていますが、水や肥料をあげたことは一度もありません。しかし、毎年変わることなく、その花々は美しい姿を現します。皆様はその姿から何を思われるでしょうか。聖書を開きますと、イエス様がいつも多くの人々に囲まれている様子が描かれているのが分かります。イエス様は人々にとって大スターだったのです。イエス様は素晴らしい奇跡を起こされます。病をたちまちに癒し、悪霊を払い、僅かなパンによって何万人もの人々のお腹を満たし、湖の上を歩き……。数え上げようと思えばきりがありません。そのようなイエス様を見て人々は思ったのです。「この方はユダヤに与えられている預言に登場する『メシア(救世主)』なのでは……!？」と。神様から遣わされた「メシア」は苦しみあえぐユダヤの民を救い、豊かさで満たす。そのような預言を彼らは知っていたのです。

イエス様の周りに集まっていた人々というのは、その多くが貧しい人々でした。国からも見捨てられ、毎日必死に生きている人々。そんな彼らの目に日々映るのは、国の上層部や周りの国々の豊かさ。なんで自分たちがこんな思いをしなくちゃいけないのか。自分たちも豊かになりたいのに!この悩みを人々はイエス様にぶつけるのです。

イエス様は貧しさの中で苦しみ、明日の命のために必死に働く人々に野原の花を示されました。「この花たちは、神様のために何か働いたり捧げものをしているわけでもない。しかし、神様はご自分の手で造られたこの小さな花を愛し、喜んで養っておられる」。今の日本でもそうなのですが「因果応報」という思考回路が常に頭を巡っているでしょう。何か悪いことが起きた時、その原因があると考えるのです。そのため、時に社会を、時には自分のことを責めてしまいます。「自分の働きが足りないから」「神様に愛されていないから」。だからこそ、彼らは必死に働き、そして神様に気に入られようと様々な努力を重ねていたのです。しかし、イエス様が彼らに教えられたのは全く違うベクトルのことでした。野原の花は毎年綺麗に咲き誇ります。花はそのために何か努力をしたり、神様に媚を打ったりしているでしょうか。いいえ。そんなことをしていないのに、美しく咲くのです。なぜなら神様はこの花を創造したことによって、既にこの花をこよなく愛しておられるからです。だから、この花が育ち生きるために必要なものを、神様がちゃんと準備してくださるのです。神様は私たちのことも創造されました。神様は花以上に、あなたを愛しておられます。あなたが生きるために必要なものをちゃんと与えて下さるのです。周りを見て「自分は少ない、自分は貧しい」と勘違いをすることもあるでしょう。しかし、神様は愛をもってあなたのことを養っておられます。もし本当に不足を感じるならば「神様、助けてください!必要なものを与えて下さい!」と祈ってみてください。本当に必要なものならば神様は惜しみなく与えて下さいます。





保育理念	受ける愛 与える愛
	愛されていることを知り・愛される者となるために

「 やってみたいを繰り返し楽しむ 」



先日、南砺市民大学講演会が行われ、「愛すべき ざんねんないきもの と進化」という演題で動物学者 今泉忠明氏が講演された会に参加する機会がありました。その中で特に心に残った言葉は、「絶滅したら、もう2度と元には戻らない」と「ネコ科の動物は人間の子育てと似ている」でした。

ネコ科の動物は、親猫が狩りの仕方や、食べ方、危険から身を守る術など段階を追って示し、それを見て子猫は生きる方法を身に付けていくのだそうです。子猫は親猫を信頼し、やって見せられた通りに真似、経験を積み重ねながら、危険な行為、安心な行為を見極め成長していくというのです。人間は言葉で、くどくどと説明してしまいがちですが、そうではなく「親や保育者が自ら手本を示す」ことの大切さに気付かせて頂きました。

さて、新年度を迎えて3ヶ月目、毎日の生活にも慣れて落ち着きを感じる頃になりました。新入園児からも友だちの名前を呼ぶ声が聞けるようになってきているこの頃です。身の回りのことで、自分でできることは自分でしましよ、給食の食事の量はどうか、減らしてほしいものがあつたら教えてね、困っている時に声を掛けてね、と呼びかけていると、自分の意志を伝えようとする姿がみえてくるようになってきました。友達への関心が広がり友達と一緒に楽しいと感じる一方で、物の取り合いなどのトラブルも増えてきています。そのような時は、お互いの気持ちを受け止め、代弁したりしながら納得できるように仲介しています。集団生活の中でのきまりやルールが守れない友達に対し、「駄目だよ」と注意する姿も見られるようになってきました。保育者は「きつと分かるようになるから待っててね」と繰り返し伝えるようにしています。

4.5歳児は一緒に行動することが多く、お互いに良い刺激を受けあっているようです。

前月から続いている色水遊びでは、様々な発見や発想があり試行錯誤を楽しむ子どもたちに驚きを覚えました。草花の花びらをつぶしてできた色水は、何とも言えないほどに綺麗で、子どもたちは「これを持って帰りたい」「このままずーっと とっておきたい」と言うのです。そして、このままの姿を残したいと思いを巡らした結果「氷の水に入れといたらいいんじゃない?」「北極に持って行ったらいいかな?」・・・「冷蔵庫で凍らせたら?」と友だちと意見を出し合い先生に頼んでみようとなったようです。思いがかなった子どもたちは、満足感を感じたことでしょう。各クラスでは自分たちで野菜の苗や種（ジャガイモ・サツマイモ・パセリ・トマト・ラディシ・カボチャ）花の種（ニンジン・オシロイバナ・ヒヤクニチソウ・千日紅・アスター・アサガオ）を植えたり蒔いたりして生長を楽しみにしています。土、砂、泥、などの素材に触れ楽しみながら、その特性に気づき心地よさを味わう日々はなんと幸せな時間でしょう。スマホ脳という本の中で「社会のデジタル化がどんどん進む中で脳の側が不適應を起こし、それがさまざま形で私たちの健康を脅かしている」うつ病や睡眠障害が急増しているというのです。人間は常に体を使って成長するように造られているため、体を使って遊び、学び続けることが人類の未来を支えるというのです。明るい陽の光を浴び、体を十分に使って遊び、学び、考え、試し、友だちと共感しあうそのような昔ながらのやり方が、改めて大切であることを心に留めていきましょう。「やってみたいを繰り返し楽しむ」時間を保証していきたいものです。